

保管

婦人関係業務資料 40号

勤労者家庭の主婦の安全意識 に関する調査結果報告書

労働省婦人少年局

は し が き

勤労者家庭の福祉を増進することは、労働福祉の見地からも、日本経済発展のうえからも重要な意義をもつところから、事業主・勤労者ならびにその主婦及び関係機関・団体等の勤労者家庭福祉についての関心と、理解を喚起するために、労働省婦人少年局では、一定の期間を定めて、勤労者家庭福祉のための活動を全国的に行なっています。

この調査は、勤労者家庭における主婦の安全意識をは握し、行政の参考に資するために、昭和43年度の労働者家族福祉特別活動期間(10月)中に行なったものです。

この調査の実施にあたり、御協力いただいた事業所ならびに関係各位に対し厚く御礼申し上げます。

昭和44年6月

労働省婦人少年局

目 次

は し が き	1
調 査 の 概 要	8
1 目 的	3
2 対 象 者	8
3 実 施 時 期	8
4 調 査 方 法	8
5 調 査 の 項 目	4
調 査 結 果 の 概 要	6
調 査 結 果	7
I 対 象 世 帯 の 属 性	7
1 家 族 数	7
2 夫 と 妻 の 年 令	8
3 妻 の 職 業	8
4 夫 の 勤 務 形 態	8
5 家 族 の 通 勤 通 学 の 方 法	9
II 家 族 の 安 全 に つ い て の 主 婦 の 意 識	10
1 家 庭 で の 心 配	10
2 家 族 の 危 険 の 所 在	10
III 最 近 に お こ っ た 不 慮 の 事 故 の 状 況	11
1 事 故 の 状 況	11
2 ケ ガ の 状 況	11
3 死 亡 の 状 況	12
IV 職 場 の 安 全 に つ い て	13
1 職 場 見 学 の 経 験	13
2 職 場 見 学 の 感 想	13
3 職 場 に 関 す る 夫 婦 の 話 し あ い	14
4 職 場 安 全 の た め の 主 婦 の 配 慮	15
V 主 婦 へ の 安 全 知 識 の 普 及 状 況	15

調 査 の 概 要

1 目 的

家族の福祉と家庭生活安定のためには、家族成員の安全の維持が基本的に必要であり、また産業災害防止のためにも、勤労者家庭における安全意識の向上が肝要である。このような観点から、勤労者家庭の主婦の安全意識を把握し、行政上の参考に資することを目的とした。

2 対 象 者

製造業（木材・木製品製造業、家具・装備品製造業、パルプ・紙・紙製品製造業、化学工業、窯業・土石製品製造業、鉄鋼業、非鉄金属製品製造業、金属製品製造業、機械製造業、輸送用機械器具製造業の10業種）の現場で働く勤労者の妻で、46事業所（1都道府県あたり1事業所を選定）から任意に抽出された1,206名。ただし、有効回収数1,168名。

なお、対象者の夫の働く事業所を産業中分類別にみると次のとおりである。

産 業 別	計	木 材 ・ 木 製 品 製 造 業	家 具 ・ 装 備 品 製 造 業	パ ル プ ・ 紙 ・ 紙 製 品 製 造 業	化 学 工 業	窯 業 ・ 土 石 製 品 製 造 業	鉄 鋼 業	非 鉄 金 属 製 品 製 造 業	金 属 製 品 製 造 業	機 械 製 造 業	輸 送 用 機 械 器 具 製 造 業
世 帯 数	1,168	26	37	158	269	52	54	20	62	287	208

（注）業種は製造業のうち災害度数率及び強度率の比較的高い10業種の中から、各府県任意にえらんだものである。

3 実 施 時 期

昭和43年10月

4 調 査 方 法

次のいずれかの方法による。

(1) 事業所をととして調査票を配布し、対象者自身に記入してもらい、再び事業所をととして回収

した。

- (2) 対象者を事業所の集会所などに集め、婦人少年室の職員から趣旨を説明し、対象者自身に記入してもらい回収した。

5. 調査の項目

(1) 生活全般における安全について

- ・ 家族の安全についての主婦の意識
- ・ 最近におこった不慮の事故の状況

(2) 職場安全について

- ・ 職場見学の経験の有無
- ・ 職場に関する夫婦の話し合いの状況
- ・ 職場安全のための主婦の配慮
- ・ 職場安全知識の普及状況

調査結果の概要

1. 対象世帯について

対象世帯の家族数は8人～5人の世帯があわせて約8割を占めており、平均家族数は4.07人である。

夫の年齢は、30才代がもっとも多く、40才代をあわせて75%となる。一方妻の年齢は30才代が多く、30才未満の30.7%をあわせて調査対象者の7割を越えている。

家事以外の仕事をもっている妻は36.5%である。

夫の勤務形態は日勤が過半数(65.8%)を占め、交替制勤務は3割である。

また、職場や学校等へ通勤通学している者は1世帯平均2.63人であるが、各種の乗り物を利用してゐる者は57%である。

乗り物の種類をみると、汽車・電車・バス等の公共の乗り物が多く、ついで自転車、自家用車の順となっている。

2. 家族の安全についての主婦の意識

家庭での安全については、87%の主婦は心配があると答えており、火事(74%)や子どもの事故(58%)についての心配が多い。

また日常生活の中で危険に会いそうな場所としては、家族のそれぞれが一日の生活の大部分を過ごす場所やその周辺あるいはそこへの行きかえりの途中をあげている。たとえば夫については、職場やその行きかえり、子どもについては、学校やその行きかえりあるいは近所の路上などである。

3. 最近に起こった不慮の事故

最近の10年間に身近の者で不慮の事故にあった者が全くいないと答えた主婦は8.9%で、6割の主婦は家族や親せき、あるいは友人・知人などが不慮の事故にあったと答えている。死亡事故は34.6%、ケガは55.5%である。

事故にあった人は身内の者が多く、死亡では5割を越え、ケガではその8割を占めている。

事故にあった場所は、乗物や路上が死亡・ケガともに多く、それぞれ8～7割を占めている。

職場における事故は、ケガの中では20%、死亡については12.4%である。

4 職場の安全について

夫の職場を見学したことのある主婦は86.4%、見学したことのない者は63.5%である。見学したことのない者もその8割は機会があれば夫の職場を見学したいといっている。

見学した主婦のほとんどは、夫の苦勞がわかった、夫の職場の話がよくわかるようになった、職場についての知識が得られた等の理由をあげて職場見学をしてよかったといっている。しかし、職場見学をした主婦の7割余りが職場の安全についての危険感をもち、うち16%はとても危険だと思ったとのべている。

また、夫の職場での安全のために大半の主婦は、睡眠・栄養・明るい家族関係をつくる、心勞をかけることなど、いろいろと配慮している。

一方配慮していないと答えた主婦は、その理由として、安全は本人が注意すべきことであり、また事業所が配慮すべきことであるといっている。

5 主婦への安全知識の普及状況

調査対象事業所のうち、勤勞者の家族に対し安全教育を行なっている事業所は $\frac{2}{3}$ である。

何らかの機会に工場安全の話をきいたことのある主婦(65%)は、夫からきいた者が多く(72%)工場で開催した会合できいた者は2割にみだない。その他ラジオ・テレビ等できいた者が約15%あった。また、安全週間(7月1日~7日)を知っていると答えた主婦は7割で、このうち実施時期を正確に答えたのは57%である。ちなみに全国労働衛生週間(10月1日~7日)については6割の主婦が知っていると答え、そのうち約76%が実施月を正確に答えている。

調 査 結 果

I 対象世帯の属性

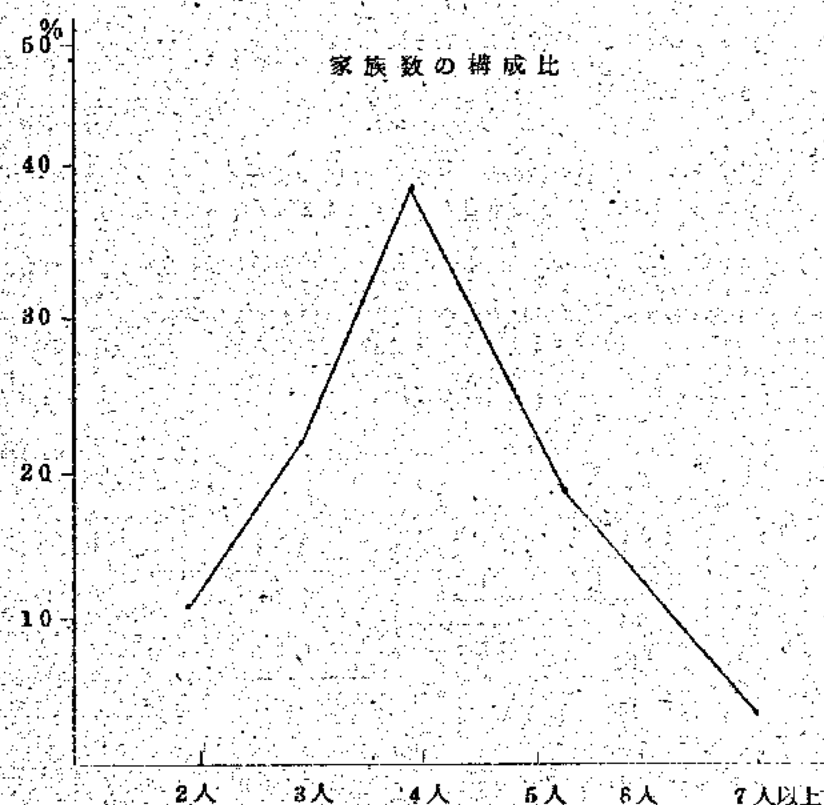
1. 家族数

対象世帯の家族数をみると、4人家族がもっとも多く87.7%、ついで3人(21.1%)、5人(17.9%)となっており、8~6人家族が全体の約80%を占めている。7人以上の家族はわずか3.8%にすぎない。

平均家族数は、4.07人で、これは昭和40年の国勢調査によるわが国普通世帯あたり人員(4.06人)とほとんど同じである。

第1表 家 族 構 成

	総 数		家 族 員 数					
	実 数	%	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	7 人
世 帯 数	1,168	100	103	211	377	179	92	38



2 夫と妻の年齢

対象世帯の夫の年齢構成をみると、30才代が45.4%、ついで40才代の29.6%が多く、あわせて75%を占めており、30才未満は2割に満たない。

妻の年齢構成は、夫の場合と同じく30才代がもっとも多く42.4%を占め、ついで30才未満の30.7%、40才代の22.4%となっている。

50才以上は夫の8.6%に対し妻は3.7%にすぎない。

不明の者を除いた平均年齢は、夫87.5才、妻84.4才となっている。

第2表 夫と妻の年齢

	総 数		年 令				
	実 数	%	～ 29	30～39	40～49	50才以上	不 明
夫	1168	100	15.9	45.4	29.6	8.6	0.5
妻	1168	100	30.7	42.4	22.4	3.7	0.8

3 妻の職業

対象世帯で家事以外に仕事をもっている妻は86.5%と相当高い割合を示している。これを夫の事業所の規模別にみると、500人未満の規模では有職が過半数を占めているが、500人以上では25.7%とかなり少なくなっている。

一方無職は、規模500人以上では61%、500人未満では42%となっている。

有職者の仕事の種類をみると、農林の25.5%がもっとも多く、事務員(23.9%)、工員(18.3%)、店員(8.5%)とつづいている。その他に内職をしている主婦も13.3%いる。

第3表 妻の職業

	実 数	%	有 職	無 職	不 明
合 計	1168	100	86.6	53.1	10.8
500人未満	486	100	51.9	42.0	6.1
500人以上	682	100	25.7	61.0	13.3

4 夫の勤務形態

対象世帯の夫の勤務形態をみると、日勤の65.8%に対し、交替制勤務は30.1%となっている。

これを規模別にみると、500人未満では日勤が多く71.2%を占め、交替制は24.7%となっている。また500人以上では日勤61.9%、交替制33.7%となっている。

第4表 夫の勤務形態

	総 数		勤 務 形 態		
	実 数	%	日 勤	交 替 制	不 明
合 計	1168	100	65.8	30.1	4.8
500人未満	486	100	71.2	24.7	4.1
500人以上	682	100	61.9	33.7	4.4

5 家族の通勤通学の方法

対象世帯で、職場や学校等(幼稚園・保育園を含む)へ通勤通学している家族の総数は3076名である。そのうち各種の乗り物を利用している者は57.1%、乗り物を全く利用しないで、徒歩のみで通勤通学している者は18.9%である。

もっとも多く利用している交通機関は、汽車・電車・バス等公共の乗り物で27.6%、ついで自転車の18.7%、自家用車の7.8%となっている。

これを夫と、夫以外の家族とに分けてみると、夫の場合は、汽車・電車・バスの利用者(31.3%)と、自転車の利用者(29.8%)が多い。ついで自家用車の利用者(14.8%)、その他オートバイ等の利用者(15.6%)となっており、徒歩のみで通勤している者は18.9%である。

夫以外の家族で通勤あるいは通学している者は1世帯あたり平均1.6人であるが、これを通勤通学の方法別にみると、徒歩のみの者が半数近く(49.2%)を占めている。これは小・中学校の生徒が多いためとみられる。汽車・電車・バスの利用者も多い(25.4%)が、自家用車利用は、夫との同乗も含めて2.7%にすぎない。

第5表 通勤通学の方法

	総 数		通 勤 通 学 の 方 法					
	実 数	%	汽車・電車・バス	自家用車	自転車	徒歩のみ	その他	不 明
合 計	3076	100	27.6	7.8	18.7	35.8	6.7	7.2
夫	1168	100	31.3	14.8	29.8	13.9	15.6	0.7
夫以外の家族	1908	100	25.4	2.7	11.9	49.2	1.2	11.1

(注) 汽車・電車・バスと自転車及びその他を併用している者もいるのでその計は100%をこえる

Ⅱ 家族の安全についての主婦の意識

1. 家庭での心配

家庭での安全について、特に心配なことはないという者は1割程度にすぎず、87%の主婦は心配があると答えている。

心配があると答えた者についてその内容をみると、78.6%の主婦は火事について心配している。ついで子どもの転落ややけどあるいは薬やボタンの誤飲など子どもに関する事故を心配している者が多く(58.2%)、そのほか泥棒などの犯罪(27.7%)や押し売り(9.1%)等の心配をあげている。

第6表 家庭での安全についての心配

総 数		心配あり	あ り の 内 訳					心配なし	不 明
実 数	%		火 事	泥 棒	押 売	子供の事故	その他		
1,168	100	870 (100)	(78.6)	(27.7)	(9.1)	(58.2)	(1.7)	11.9	1.1

(注) ありの内訳は多答のためその計は100%をこえる

2. 家族の危険の所在

多くの主婦は、自分をはじめ、夫や子どもが日常生活の中でいろいろな危険に出会いそうだと感じているが、これを属性別に危険に出会いそうな場所についてきいてみると、家族のそれぞれが一日の生活の中で多くの時間を過ごす場所やその周辺及びその途中をあげている主婦が多い。すなわち、夫については職場と職場への往復、妻(主婦自身)と小学生以下の子どもについては近所の路上、中学生以上の子どもについては学校の往復をあげたものがそれぞれもっとも多い。

次いで多いのは、夫と妻については、行楽地(海や山など)や通勤以外の時に乗る交通機関、小学生以下の子どもについては、遊び場や学校への往復、中学生以上の子どもについては学校や通学以外のときに乗る交通機関等となっている。

また、家庭内で危険に出会いそうなのは、妻(43.6%)と小学生以下の子ども(31.3%)が多く他の家族に比べ1.6~3.3ポイントも高くなっている。

第7表 危険の所在

	危険あり		危 険 な 場 所									
	実 数	%	家庭内	職場	学校	行楽地	子供の遊び場	職場への行きかえり	学校への行き帰り	近所の路上	通勤通学以外にのる交通機関	その他
夫	1,168	100	153	903	—	519	—	918	—	408	453	135
妻	1,047	100	436	139	02	439	31	199	05	786	428	172
子 小 学 生 以 下	764	100	318	—	279	355	690	—	589	708	249	119
中 学 生 以 上	848	100	106	63	445	408	86	112	845	362	425	103

(注) 「危険な場所」の内訳は多答のためその計は100%をこえる

Ⅲ 最近におこった不慮の事故の状況

1. 事故の状況

最近の10年間に、家族・親せき・友人・知人などで身近かの者で不慮の事故にあった者が全くいないと答えた主婦は8.9%にすぎず、61%の主婦は、家族や親せき知人などがケガをしたり、死亡するという何らかの事故にあっていると答えている。そのうち85.5%はケガに、34.6%は死亡事故にあったと答えている。死亡の割合が比較的高い率を占めているが、過去10年間の記憶の中で、死亡事故はケガよりも強く印象に残っているということもその理由の一つと考えられる。

第8表 事故の有無等

総 数		事 故 あ り	事 故 の 内 容		事 故 な し
実 数	%		ケ ガ	死 亡	
1,168	100	610 (100)	(85.5)	(34.6)	39.0

(注) ケガと死亡の両事故にあっている世帯があるのでその計は100%をこえる

2. ケガの状況

過去10年間の主婦の記憶に残るケガをした人は725人である。その40%は家族で、親せきの86.3%とあわせて約8割までは身内の者であるが、近所の人やその他友人知人等のケガについても記憶に残っているものか28.8%はある。

なお、調査対象世帯の1.2%の夫と、2%弱の妻が事故によりケガをしている

ケガをした場所は、全体を通じて乗物や路上がもっとも多く72%を占めているが、職場でのケガも20.1%にのぼっている。

乗物や路上でケガをしたのは、親せきの者と家族で過半数を占めている。

また、職場でケガをしたのは、夫が多く、職場におけるケガの半数近くを占めている。

家庭内でのケガは、全体の4%にすぎない。

ケガの状況を属性別にみると、夫の場合は、乗物や路上(50.4%)及び職場(47.5%)におけるケガが多く、あわせて97.9%となっている。

夫以外の家族、親せき、近所の人のそれぞれ8割内外は乗物や路上での事故となっている。

第9表 ケガの状況

	総 数		ケガの場所			
	実 数	%	家 庭 内	職 場	乗物、路上	そ の 他
合 計	726	100	4.4	20.0	72.0	8.5
夫	141	19.5 (100)	0.4 (2.1)	9.3 (47.5)	9.8 (50.4)	—
夫以外の家族	148	20.4 (100)	2.5 (12.2)	1.3 (6.8)	14.8 (72.3)	1.8 (8.8)
親 せ き	268	36.3 (100)	0.7 (1.9)	5.1 (14.1)	29.5 (81.4)	1.0 (2.7)
近 所 の 人	130	17.9 (100)	0.8 (4.6)	2.2 (12.3)	14.5 (80.8)	0.4 (2.3)
そ の 他	43	5.9 (100)	—	2.2 (37.2)	3.4 (58.1)	0.3 (4.7)

3. 死亡の状況

258人が過去10年間の、主婦の記憶にある事故死者の数である。その内訳をみると、親せきの者が半数近く(45.7%)を占めているが、近所の人もかなり多い(33.7%)。家族の事故死者は、死亡者全体の1割にみえないが、親せきの事故死者をあわせると、10年間に調査対象の85世帯に1件の割合いで身近に事故死が発生したことになる。

死亡した場所は、ケガの場合と同様、乗物や路上がもっとも多く、その8割近くを占めている。

職場における死亡事故は、死亡事故全体の12.4%である。

第10表 死亡の状況

	総 数		死 亡 の 場 所			
	実 数	%	家 庭 内	職 場	乗物、路上	そ の 他
合 計	258	100	1.1	12.4	79.1	7.4
家 族	19	7.4 (100)	—	0.8 (10.5)	5.4 (73.7)	1.2 (15.8)
親 せ き	118	45.7 (100)	0.8 (1.7)	5.0 (11.0)	36.8 (80.5)	3.1 (6.8)
近 所 の 人	87	33.7 (100)	0.3 (0.2)	4.3 (12.6)	26.4 (78.2)	2.7 (8.0)
そ の 他	34	13.2 (100)	—	2.3 (17.6)	10.5 (79.5)	0.3 (2.9)

IV 職場の安全について

1. 職場見学の実験

夫の職場を見学したことのある主婦は、全体の36.4%、見学したことのない者は63.5%である。見学したことのない者もその8割は機会があれば夫の職場を見学したいといっている。一方夫の職場を見学したいとは思わないと答えた主婦も18.9%あった。

規模別にみると、500人未満の事業所では見学したことのある主婦は42%、見学したことのない主婦は58%である。見学したことのない者のうち81.9%は夫の職場を見学したいといっている。

また、500人以上の事業所では、見学したことのある主婦は32.4%で500人未満事業所の割り合いよりやや低い。見学をしたことのない者のうち、見学を希望する主婦は78.9%となっている。

第11表 職場見学の状況

	総 数		職場見学をしたことあり	職場見学をしたことない				不 明
	実 数	%		計	見学したいと思う	見学したいと思わない	不 明	
合 計	1,168	100	364	635 (100)	(80.0)	(18.9)	(1.0)	0.1
500人未満	486	100	420	580 (100)	(81.9)	(17.4)	(0.7)	—
500人以上	682	100	324	674 (100)	(78.9)	(19.8)	(1.3)	0.2

2. 職場見学の感想

夫の作業現場を見学した425人の感想をみると、ほとんどの主婦(95.8%)はみてよかったといっている。

見学してよかった理由としては、夫の苦勞がよくわかったから（50.9%）、夫の職場の話がよくわかるようになったから（34.4%）、職場についての知識が得られたから（88.1%）などと答えている。

また、職場見学をした主婦の7割余りが職場の安全面についての危険感をもち、そのうちの16%はとても危険だと思ったとのべている。

第12表-1 職場見学の感想（見学したことについて）

見学した者の数		みてよかったと思う	よかった理由					みてよかったとは思わない	不明
実数	%		夫の苦勞がよくわかった	職場の話がわかるようになった	職場についての知識を得た	その他	不明		
425	100	958 (100)	(609)	(844)	(881)	(20)	(02)	28	14

（注）よかった理由は多答のためその計は100%をこえる

第12表-2 職場見学の感想（安全面について）

見学した者の数		危険なことはないと思った	危険があると思った	不明
実数	%			
425	100	268	708	24

3. 職場に関する夫婦の話しあい

夫と職場のできごとについて、よく話しあうと答えた主婦は15.7%で、とき話しあう56.4%をあわせて調査対象の7割までは夫婦間で職場のことが話題となっている。

反面めったに話しあわないと答えた主婦は27.6%あったが、そのうちの4割はもっと話しあいたいといっている。

第13表 話しあいの状況

総数		よく話し合う	時々話しあう	めったに話しあわない				不明
実数	%			計	話しあいたい	別に話しあいたくない	不明	
1168	100	157	564	276 (100)	(401)	(578)	(21)	03

4. 職場安全のための主婦の配慮

夫の職場での安全のために家庭で配慮していることがあると答えた主婦は90.9%で、特に配慮していないというものも約1割ある。

配慮の内容は、交替制勤務の夫のために子どもをさわがせないよう注意して睡眠をとりやすい環境を作るなど睡眠の配慮が67.8%、明るい家族関係をつくることに59.4%、心労をかけないことに40.8%、また現場作業の夫のために栄養に配慮することに58.8%など、主婦は夫の職場での安全のために各種の配慮をしている。

一方、職場での安全のための配慮を家庭では特にしていないと答えた主婦は、その理由として、安全は本人が注意すべきこと（71.2%）であり、また事業所が気を配ること（25%）であるからといっている。

第14表 家庭での配慮の状況

総数		配慮している	配慮の内容						配慮していない	配慮していない理由				不明
実数	%		栄養	睡眠	娯楽	家族関係	心労をかけない	その他		本人の注意	職場の配慮	その他	不明	
1168	100	909 (100)	(588)	(678)	(161)	(594)	(408)	(94)	89 (100)	(712)	(250)	(48)	(38)	02

（注）配慮の内容及び配慮していない理由はそれぞれ多答のためその計は100%をこえる

V 主婦への安全知識の普及状況

調査対象事業所のうち、勤労者の家族に対し産業災害防止のために安全教育を行なっているのは $\frac{2}{3}$ で（81事業所）全く行なっていないのは15事業所である。行なっている安全教育の内容の大部分

は、全国安全週間（7月1日～7日）あるいは全国労働衛生週間（10月1日～7日）を中心とした安全懇談会や工場見学会、安全標語やポスターの募集、社内報や通信によるPR、資料の配布などとなっており、年間を通して家族に対する安全教育を実施しているところはあまりみられない。

これらの事業所の現場に働く勤労者の主婦で、何らかの機会に工場安全についての話を聞いたことのある者は65.2%、ない者33.8%となっており、規模による差は少ない。

第15表 工場安全の話の聴取状況

	総 数		聞いたことあり	聞いたことなし	不 明
	実 数	%			
合 計	1,168	100	652	338	10
500人未満	486	100	686	309	06
500人以上	682	100	628	359	13

この工場安全の話は、72%の主婦が夫からきいており、工場で催した会合で聞いた者は17.9%にすぎない。このほか、ラジオ・テレビでというのが14.8%、その他の会合でが4.7%となっている。

また、労働災害防止のための全国安全週間や、労働衛生意識の高揚を図るための全国労働衛生週間の歴史もかなり古く、現在各事業所ではこれらの行事を年々さかんに行なっているが、安全週間については71.6%の主婦が知っていると答えた。しかし、その実施時期を正確に答えた者は、知っていると答えた者のうちの66.9%であった。

さらに、全国労働衛生週間については、知っているという者は約60%、そのうちの75.9%が実施月を正確に答えた。

なお、安全週間よりも歴史の浅い労働衛生週間の月を正確に知っている者が多かったことについてはこの調査がその週間のある10月に行なわれたことも多少影響があったと思われる。

第16表 安 全 週 間

総 数		知っている	何 月 か		知らない	不 明
実 数	%		7 月	その他の月 わからない		
1,168	100	716 (100)	(569)	(431)	281	08

第17表 労働衛生週間

総 数		知っている	何 月 か		知らない	不 明
実 数	%		7 月	その他の月 わからない		
1,168	100	697 (100)	(759)	(241)	396	07

安全についてのアンケート

※都道府県名	※調査区分	※事業場規模
		1 500人未満
		2 500人以上

(婦人少年室記入)

昭和43年10月

労働省婦人少年局

記入についての注意：質問に対する回答は該当する番号を○で囲むかまたはあてはまる番を記入して下さい。なお、※印欄は記入しないで下さい。

I おたぐの家族で現在いつよに住んでいる人について記入して下さい。

1. あなたと2. 清年今	3. 職業または学校(注)	4. 勤務形態	5. 通勤、通学などの方法(該当するものすべてに○をつけて下さい。)	※3.	※4.	※5.
1. 本人		日勤、交替制	汽車、電車、バス、自家用車、自転車、徒歩、その他()			
2. 夫		日勤、交替制	汽車、電車、バス、自家用車、自転車、徒歩、その他()			
3.		日勤、交替制	汽車、電車、バス、自家用車、自転車、徒歩、その他()			
4.		日勤、交替制	汽車、電車、バス、自家用車、自転車、徒歩、その他()			
5.		日勤、交替制	汽車、電車、バス、自家用車、自転車、徒歩、その他()			
6.		日勤、交替制	汽車、電車、バス、自家用車、自転車、徒歩、その他()			
7.		日勤、交替制	汽車、電車、バス、自家用車、自転車、徒歩、その他()			
8.		日勤、交替制	汽車、電車、バス、自家用車、自転車、徒歩、その他()			

(注) 職業欄にはプレス工、旋盤工等の具体的な職種も記入して下さい。また、商業、農業、内職など家でしている仕事も書いて下さい。
学校在学中の方については、大学、高校、中学校、小学校、幼稚園、保育所、その他の学校の区分に従って記入して下さい。

II 毎日の生活の中での安全についておうかがいます。

1. あなたの御家族が毎日の生活の中で、ケガをしたり、死んだりという危険に会いそうなのはどこでしょうか。下の項目のうち、あてはまるものを丸で囲むように枠内に記入して下さい。

順位	1	2	3	4	5	6	7
① 夫の場合							
② 妻の場合							
③ 小学生またはそれ以下の子供の場合							
④ 中学生以上の子供の場合							
⑤ その他の家族の場合							

1 家庭内
2 職場
3 学校
4 行楽地(海、山など)
5 子供の遊び場
6 職場への行きかえり
7 学校への行きかえり
8 近所の路上(5、6、7、をを除く)
9 通勤、通学以外に乗る交通機関
10 その他

記入例 ① 夫の場合 → 2 6 4 8

2. 家庭での安全について特に心配なことがありますか。それはどんなことですか。

1 火事	4 子供の事故(転落、やけど、薬・ボタンの誤飲など)
2 泥棒などの犯罪	5 その他()
3 押売り	6 特に心配なことはない。

3. 最近の10年間にあなたのおまじかな方、たとえば家族、隣せき、あるいは近所の方などが、不慮の事故でケガをしたり、死亡するということがありましたか。

1 ケガをした	→ ① それは誰ですか → ② それはどこでおこったのですか → ③ それはどんな事故でしたか														
	<table><tr><td>1 自分(妻)</td><td>1 家庭内</td></tr><tr><td>2 自分(夫)</td><td>2 職場</td></tr><tr><td>3 自分(子供)</td><td>3 乗物または路上</td></tr><tr><td>4 その他の家族</td><td>4 その他()</td></tr><tr><td>5 親せき</td><td></td></tr><tr><td>6 近所の人</td><td></td></tr><tr><td>7 その他の知人</td><td></td></tr></table>	1 自分(妻)	1 家庭内	2 自分(夫)	2 職場	3 自分(子供)	3 乗物または路上	4 その他の家族	4 その他()	5 親せき		6 近所の人		7 その他の知人	
1 自分(妻)	1 家庭内														
2 自分(夫)	2 職場														
3 自分(子供)	3 乗物または路上														
4 その他の家族	4 その他()														
5 親せき															
6 近所の人															
7 その他の知人															
2 死亡した	→ ① それは誰ですか → ② それはどこでおこったのですか → ③ それはどんな事故でしたか														
	<table><tr><td>1 自分(夫)</td><td>1 家庭内</td></tr><tr><td>2 自分(子供)</td><td>2 職場</td></tr><tr><td>3 自分(家族)</td><td>3 乗物または路上</td></tr><tr><td>4 親せき</td><td>4 その他()</td></tr><tr><td>5 近所の人</td><td></td></tr><tr><td>6 その他の知人</td><td></td></tr></table>	1 自分(夫)	1 家庭内	2 自分(子供)	2 職場	3 自分(家族)	3 乗物または路上	4 親せき	4 その他()	5 近所の人		6 その他の知人			
1 自分(夫)	1 家庭内														
2 自分(子供)	2 職場														
3 自分(家族)	3 乗物または路上														
4 親せき	4 その他()														
5 近所の人															
6 その他の知人															

- 3 ケガも死亡もしない

(注) ケガをしたり死亡したりした人が何人もいる場合は、人物と場所と事故の模様を線で結んで処理して下さい。

Ⅲ 御主人の職場での生活について奥さんの御意見をうかがいます。

1. 御主人の職場を見たことがありますか

1	あ	① 安全面からどんな感じをうけましたか	→	1 危険なことはないと思った 2 少し危険だと思った 3 とても危険だと思った
---	---	---------------------	---	---

② みてよかつたと思いましたか

1	みてよかつたと思った	→それは何故ですか
2	特にみてよかつたと思わない	

1	夫の苦勞がよくわかつたから 2 夫の職場の話がよくわかるようになったから 3 職場についての知識が得られたから 4 その他 ()
---	--

③ 職場見学をしたいと思いませんか

2	ない	→職場見学をしたいと思いませんか	→	1 したいと思う 2 したいと思わない
---	----	------------------	---	------------------------

2. 御主人と職場のできごとについて話しあうことがありますか

1	よく話しあう 2 時々話しあう 3 やつたに話しあわない	→もつと話しあいたいと思いませんか	→	1 話しあいたい 2 別に話しあいたくない
---	------------------------------------	-------------------	---	--------------------------

3. 御主人の職場での安全のための家庭で何か気を配っていることがありますか

1	気を配っていることがある	→それはどんなことですか
2	特にない	→それはなぜですか

1	米俵の採取 2 充分な睡眠 3 適当な栄養 4 明るい家族関係 5 心勞をかけないこと 6 その他 ()
---	--

1	安全は本人が注意すべきだから 2 安全は職場で気を配ることだから 3 その他 ()
---	--

4. 工場安全についての話を聞いたことがありますか

1	聞いたことがある	→それはどこで (あるいは) (だれから) ですか
2	聞いたことがない	

1	工場の催した会合で 2 その他の会合で 3 ラジオ、テレビで 4 夫から 5 その他 ()
---	--

5. 全国安全週間というのを知っていますか

1	知っている	→それは何月ですか	月
2	知らない		

6. 全国労働衛生週間というのを知っていますか

1	知っている	→それは何月ですか	月
2	知らない		

勤労者家庭の主婦の安全意識に関する調査

結 果 報 告 書

昭和44年6月5日印刷

昭和44年6月5日発行

発 行 者 東京都千代田区大手町1の7

労 働 省 婦 人 少 年 局

印 刷 所 有 限 会 社 森 元 謄 写 館
